ごあいさつ

佐伯史談会会長　汐月三代吉

このたび矢野弥生会長の後を受け、史談会運営の重責を担うことになりました。

ご承知のとおり佐伯史談会は、昭和三十三年（一九五八）三月、今は故人となられた羽柴弘先生指導のもとに、佐伯地域（主として佐伯市・南海部郡）の地方史ならびに文化・民俗等について調査研究し、会員の教養を高め、地域社会に奉仕することを目的として、故高木嘉吉氏を初代会長に会員十一人で出発しました。その後数多くの優れた先輩たちの手により、着実に会の発展が図られ、満四十歳を迎えた今日、会員三百二十人を越える大きな研究団体に成長し、その機関紙「佐伯史談」も一七七号を数えるまでになりました。

このような歴史を振り返るとき、浅学非才の私としてはまことに身の引き締まる思いでありますが、スタッフ全員の協力を得て、この会の更なる発展を期し、微力を尽くしたいと念願しております。

現在の史談会は、これまでの伝統の重みのせいか、すこし専門的すぎて近寄りがたいという印象を与えている感じがします。したがって、これからは会員皆さんの衆知を集め、運営のうえでいろいろと工夫をこらし、もっと多くの人々が気軽に入会し、親しみのもてる組織に変わって行く必要があります。そのためには次のようなことが考えられます。

一、大小を含め会員が出会い、語らい、かつ実際に学べる機会を、多く作り出すこと。

一、行事の都度、なるべく多くの資料や情報が提供できるよう、努力すること。また会員同士の情報交換に便宜を図ること。

一、郷土の歴史書、歴史資料などを、分かりやすい形に変えて頒布できるようにすること。

一、他の関係団体との交流を進めること。

なお、今年は佐伯史談会発足四十周年に当たるので、これを記念する何らかの意義ある事業を実施したいと考えています。

会員の皆さんには、これまでにも増してご協力ご支援を賜わりますようお願い申し上げ、併せてますますのご研鑽を祈念して、就任のあいさつとします。